

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670200429号		
法人名	医療法人 同潤会		
事業所名	自立の家		
所在地	鹿児島県 薩摩川内市 大小路町 54番地8号 (電話) 0996-22-8611		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月31日	評価確定日	平成21年8月22日

【情報提供票より】 (21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人 非常勤 0人 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	0名			
要介護3	7名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	86歳	最低	80歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井病院 時吉歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市中心街の利便性の良い地に周囲の住宅と調和して、落ち着いた佇まいのホームである。敷地内に母体病院・介護老人保健施設・在宅介護支援事業所・ヘルパーセンターが併設されており、常に入居者と関わりを持つ事のできる環境と健康管理面での支援体制ができています。職員は入居者の生活歴に沿った支援と、思いや意向をしっかりと把握できるケアに努めており、入居者が笑顔でいきいきとしている。また、入居者が住み慣れた町で普通に暮らしていけるように支援している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 研修計画を作成し外部研修や内部研修に参加して研鑽に努め研修報告もされており、職員の技術や知識の向上に努めている。グループホーム協議会の研修時情報交換をしたり相互交流を計画し、課題の改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的について、職員間で時間をかけて話し合い、自己評価に取り組んでいる。入居者と外出する回数をもっと多くしたいとの意見が出されて、具体的に遠足や花見・海岸清掃などに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的開催されている。毎回、避難方法について充実した意見が出されている。非常階段を設置する計画や感染予防対策などを検討し、ホームの安全確保に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回の家族会や来訪時に意思の疎通を図りながら、意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。早朝徘徊して迷惑をかけているのではとの意見に対して、夜勤以外に早出勤務の職員を配置するなど対応して、家族に満足が得られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、夏祭りやこいのぼり流し・花見・清掃活動・廃品回収などの地域行事に参加している。保育園児との交流で誕生会・運動会・秋祭り・クリスマス会などに参加している。また、地域住民のボランティア来訪など交流は盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家族との絆や今までの生活を大切にし、寄り添い触れ合いながら生活し、地域の人達と深い絆を結ぶように支援する理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティング時や申し送り時に理念を生きた方針として語っている。職員は理念を共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、夏祭り・こいのぼり流し・花見・清掃活動・廃品回収などの地域の行事に参加している。保育園児との交流は、誕生会・運動会参加や秋祭り・クリスマス会への招待など定期的に行われている。地域住民のボランティア来訪などもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について職員と話し合い、時間をかけて評価に取り組んでいる。入居者と外出する回数をもっと多くしたいとの意見が出されて、遠足・温泉・花見等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。毎回、避難方法について充実した意見が出されている。非常階段を設置する計画や感染予防対策など検討し、ホームの安全確保に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に、利用者の状況報告や運営・サービスについて、相談しながら関係作りを積極的に行い、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行しているホーム便りや家族会参加・来訪時・電話・文書で、日常の暮らしぶりや身体状況・職員紹介をしている。金銭管理は出納帳で管理し、定期的に報告してサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来訪時に意見交換をする機会をつくり、意志の疎通を図りながら、意見や要望等が出しやすい雰囲気づくりに心がけている。早朝徘徊で迷惑をかけているのではとの意見に対して、夜勤以外に早出の職員を配置して家族に満足が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。やむを得ない法人内異動の場合には、工夫し不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に交替で参加して研修報告をしている。内部研修も定期的に行い職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会や勉強会に参加して交流や情報交換をしている。他ホームとの相互交流も計画している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には在宅や病院に面会に行き、本人の生活歴や思いを十分に聞いている。また、馴染むまで見学や経験をしてもらい、本人の納得を重要視したサービス利用ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園の草取り・植え付け・収穫・肥料のやり方・台所仕事・ぬり絵など、1人ひとりの技術や役割のなかで教わったりしている。植えて実をつけなと思っていただけず玉が芽をだして、お手玉を作れた事に感動しながら日々を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの状態を把握している。本人の言動・表情・サイン・問いかけ等、観察しながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した、本人方位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しをしている。個別の生活記録にケアの実践・結果・気づきを記録して共有し、入居者の状態変化や入退院時にはその都度モニタリングを行い見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望に応じて、病院受診や墓参り、理・美容院など、必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族は母体病院をかかりつけ医として受診の支援をしている。定期的な受診や往診ができて安心感がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、本人や家族・医師・職員を交えて話し合いはされている。ホームが支援できる明確な指針は未検討である。	○	ホームが支援できる統一した指針を定め、方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、職員間で確認しながら声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、起床・食事・レクリエーション・入浴・就寝等、1人ひとりの生活リズムを大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立や食材・味付けなど、入居者の希望を聞いたり、準備や片付けなど、できる事を一緒にして、職員もさりげなくサポートしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否の人には声かけや職員が交替で対応して入浴を楽しんでいる。足浴やシャワー浴もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の植え付けや収穫・裁縫・嚙下体操・散歩時の号令かけ・プランターでの栽培を楽しんでもらう等、一人ひとりの得意な事、また、好きな事に力を発揮できるように支援している。気晴らしの支援は外食や足浴等を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買物・外気浴のほか、外食や自宅訪問・草取りなど外出の機会作りを工夫し、閉じこもらない支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアに取り組んでいる。身体状況に合わせ居室作りに工夫しており、プライバシーに配慮しながら見守りに努め、リスク等については家族・職員と話し合いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な昼・夜間の避難訓練を年3回地域住民参加の協力のもとに行っている。また、災害時の備蓄は同潤会と話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を個別に記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができています。身体状況に合わせて食事形態を変えている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は換気や温・湿度調節がなされて、配慮が行き届いている。玄関やホールに畳スペースや季節の装飾があり、花で飾られて落ち着いた共用空間である。また、階段にはスベリ止めや移動用リフトもあり、入居者はそれぞれ安全にゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・小ダンス・時計・ぬいぐるみ・工作物・畳椅子・ソファ等、使い慣れた物品が持ち込まれている。また、居室入口に分かりやすい花の名前や表札が掲げられ、それぞれ個性のある居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。